



イヌマキ等の害虫

『キオビエダシャク』にご用心！



近年、本町において、イヌマキ等（イヌマキ、ヒトツバ、ラカンマキ、ナギ）の害虫である『キオビエダシャク』の生息が確認されています。

今後の被害拡大が懸念されますので、ご自宅の庭にイヌマキ等がある方は十分注意してください。生態や対処法等については、以下のとおりです。

◆キオビエダシャクはどんな虫？

成虫は、体長約2cm、開長約6cmで、全体的に紺色で、羽に黄色の帯がある蛾で、昼間に飛び回ります。幼虫は、体長約5cmのシャクトリムシで、頭、尻及び側面がオレンジ色で、他の部分は灰色と黒色のまだら模様をしています。

幼虫のみがイヌマキ等の葉を食べ、丸坊主になるまで食害することもあり、被害にあった樹木が枯死する場合があります。

◆発生したら

①幼虫の発生が少ない場合

木を揺すって落ちた幼虫を捕殺します。また、木の根元の土中に茶褐色で紡錘方をしたサナギがいますので、掘り出して捕殺します。成虫は、捕虫網などで捕殺します。

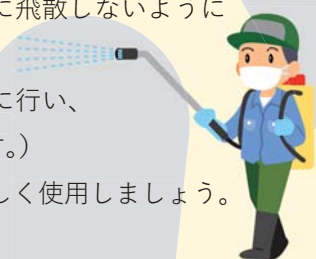
②幼虫が大量発生している場合

薬剤散布が効果的です。薬剤がムラ無く葉の裏にもかかるように散布します。その後は定期的に観察して発生を確認したら散布を実施します。ただし、薬剤散布は幼虫を殺すには効果がありますが、成虫、卵及びサナギには効果がありません。



◆自分で薬剤散布する時に気をつけること

- (1) 行う前に、あらかじめ近所の方にも連絡し、また、周辺の農作物や通行人等に飛散しないように注意しましょう。
- (2) 薬剤散布は、風がないときに、日中の暑い時間を避け、朝夕の涼しい時間帯に行い、薬剤がムラなく葉の裏にもかかるようにしましょう。（幼虫は葉の裏にもいます。）
- (3) 薬剤の使用にあたっては、ラベルの説明書を必ず読んで、記載内容に従って正しく使用しましょう。
- (4) 薬剤の希釈倍数を間違えないように注意しましょう。
（決められた希釈倍数より濃い濃度での散布はできません。）
- (5) 薬剤散布を行う際は、薬剤が体に付着しないようにマスク、手袋、帽子、長靴、雨合羽などを着用しましょう。
- (6) 薬剤散布後はただちにうがい、洗眼を行い、また手足等を石鹸で洗い、衣類は下着まで着替えましょう。



薬剤名（有効成分）	希釈倍数	使用液量 （10アール当たり）	同じ有効成分を含む 農薬の総使用回数
トレボン乳剤 エトフェンブロックス	4000倍	100～700リットル/10a	6回以内
ロックオン （フルベンジアミド）	1000倍	200～700リットル/10a	2回以内
アディオン乳剤 （ペルメトリン）	4000～8000倍	200～700リットル/10a	6回以内

◆自分で薬剤散布が出来ない場合

自分で薬剤散布ができない場合は、大隅森林組合【☎0994(40)1611】や造園業者等にご相談ください。ただし、業者による薬剤散布は有料となります。

お問い合わせ先 肝付町役場 林務水産商工課 ☎0994(67)4513